

平成 26 年 度

事 業 計 画 書

自 平成 26 年 4 月 1 日

至 平成 27 年 3 月 31 日

公益財団法人 全日本空手道連盟

平成 26 年度

事業計画

1. 基本方針

日本の政治と経済の安定が望まれる中、世界スポーツの祭典であるオリンピックゲームの東京招致が決定し、スポーツ界・一般社会に明るい話題が増えていくことに期待しつつ、今般空手道種目が採用されなかったことは大変残念であった。みんなが希望するオリンピック参加への夢はこれからも日本からはもとより世界の国々の人達によって、いろいろな形で前進していくことであろう。スポーツとしてのフェアプレイ精神、武道としての「礼と節」を重んじ、その精神を守り抜く「強い心とそれを支える強靱な体」をつくり育てること、それがこれからの日本に必要であろう。

公益財団法人全日本空手道連盟では、生涯空手道を目指し、老若男女、またハンディキャップを持つ方々をも含め望む限り誰でも親しめる競技会を開催している。

また、中央競技団体として各種競技会が勝ち負け、優劣のみを競うのではなく、大会を通して空手道の理念を求め活動してきた。

活動の拠点となっている全空連本部ともいべき日本空手道会館は各種研修会、競技力向上強化練習、技術講習会等で広く活用し、連盟運営の面で大きな役割を果たしている。

空手道を広く深く普及発展させるため、スポーツとしての指導者育成にも努め、日本体育協会と共催してスポーツ指導員・上級指導員・コーチ・上級コーチの養成を積極的にすすめ、安全で効果的な指導方法の確立に努めている。

競技会では平成25年度より改定された国際ルールを取り入れ、競技ルールの徹底により安全に配慮した誰もが納得するルールの運用に力を注いでいく。

平成24年度から中学校教育の中で武道が必修になり、本連盟では文部科学省並びに財団法人日本武道館の協力を得て「空手道指導の手引」を作成し、全国の教育

委員会・中学校及び都道府県を含む連盟関係団体に配布してきた。昨年度から授業に取り入れた中学校も多数にのぼったが、今後も教員を対象に指導者研修会を開催し、多くの中学校で教科として採用して貰えるよう働きかけていく。

競技力の面では世界での競技レベルが高くなり、日本といえどもメダルを獲得する事が困難になってきているが、空手母国日本として常に世界各国から注目されるよう強化をしていきたい。2012年より国際ルールが変わり、戦術も進化しなければならない中、強化選手に経験を積ませるべく、公認国際大会として定着してきたプレミアリーグ大会にも積極的に参加し、たくましく育てたい。

また、常にオリンピック参加を見据えて世界各国と協調し、競技としてだけでなく空手道を武道として普及していく。

目的や使命を達成するために多くの事業を推進していく中で技術集団としてどうあるべきか常に考え、守るべきものを守り、発展させるべき所は改革し、安定した将来を見据えて経営に努めていく。

平成25年度からは女性からも理事を選任し、連盟の運営、発展に多面にわたって活躍が期待される。

経済的にいろいろ制約があるなか、日本空手道会館を保持するためにいろいろな財源を模索し、無理のない運営に努めるつもりであり、その為に皆さんのご協力が不可欠と思われる。全空連を支えている地区協議会、都道府県連盟、競技団体、協力団体そして会員の方々の賛同を得ながら財政の確保に努めたい。

予定している各種事業内容は次の通りである。

2. 計画

(1) 空手道の普及・奨励

空手道を愛好し、また空手道の素晴らしさを理解してくれる人を多く求めるために、都道府県連盟を中心とした各地区協議会・競技団体及び協力団体との密接な連携により、充実した内容のある競技会、審査会並びに研修会を実施し、地域社会に役立つ活気ある本連盟の構築を目指す。各事業の中心になっている日本空手道会館を有効に生かし未来への継続を確かなものにしていく。

(2) 指導者の育成

武道とスポーツ両面から、優れた指導者の育成と資質の向上を図るため、資格取得審査会及び研修会等を開催し、さらにはその活用と活動の促進を図る。

(3) 選手の強化錬成

空手道母国日本として常に国際的競技力を高める為、シニアクラスは勿論、ジュニア層の育成と競技力の向上を目指し、少年期から一環した強化対策を確立する。国際大会にも積極的に参加させ、試合経験を積ませる。

(4) 全日本空手道選手権大会及び各選手権大会

生涯空手道、誰でもどこでも親しめる空手道として各種競技会は、非常に大きな意義をもっている。12月に開催する全日本空手道選手権大会は“日本一”の覇を競う最高の技と力の舞台として位置づけられている。

今回第14回目となる全日本少年少女空手道選手権大会は2日間を要して、東京武道館において開催する。年々向上する技術には目を見張るところが多々あり、礼儀正しく競う少年少女達の夢ある大会として、また各地区で選抜された選手のあこがれの大会になるべく、さらに充実した大会とする。

年々競技レベルが高くなってきた第9回全日本中学生空手道選抜大会は北海道北広島市において開催するが、礼儀の正しさをも競い合うような大会にしていく。

第69回国民体育大会空手道競技会は、国民的祭典の趣を以って、簡素化をしながら内容の充実成功した形で長崎県佐世保市で開催する。

生涯スポーツの振興を目的として、日本スポーツマスターズ2014は第14回目をマスターズ世代の希望を乗せて埼玉県上尾市にて、フルエントリーを目指して充実した大会とする。

第10回全日本障害者空手道競技大会も、多くの選手の参加を募って意義ある大会とする。

(5) 組織の充実と財政の確立及び広報活動の強化

良き組織の運営には内容の充実と財政の確立が不可欠である。根本になる会員の増加と事業の拡充は常に必要である。加盟団体・競技団体・協力団体をはじめ関係諸団体の協力のもとに、諸事業の見直しや有効で効率のよい事業を遂

行し、安定した財政基盤の確立に努める。

当連盟の事業活動を知ってもらう為、また空手道を理解してもらうためにも、広報機関との連携を密にし、機関紙の発行のみならず広範な広報活動を積極的に展開する。また本連盟の事業活動に関する情報・資料を集約し、J K F ホームページや情報誌「ナイスカラテライフ」「あゆみ」「かぐや」を通じ、広く一般に提供して、会員の広範な理解と関心の増進のための広報活動を積極的に展開する。

(6) 国際組織との連携及び諸外国との交流

空手人すべての夢である空手道のオリンピック種目採用に向け、機会がある毎に活動していく。2020年東京がオリンピック開催地に選ばれ、近い将来空手道が種目に採用されるよう、その為にはまずアジア空手道連盟（AKF）の一員として積極的にその役割を果たし、世界の空手道の普及と振興に努める。

世界の国々で必要とされる技術の向上や組織の充実などできる限りの支援を行い、国際競技会及び講習会には積極的に招聘に応じ選手や技術者を派遣する。

3. 事業実施概要

(1) 大会の開催(共催を含む)、実施、参加

ア. 第42回全日本空手道選手権大会の開催

| | |
|------------|---|
| 開催年月 | 平成26年12月 2日間 |
| 第1日目 | |
| 開催場所 | 東京都 東京武道館 |
| 出場選手 | 517名 |
| 競技種目 | 都道府県対抗 男子・女子組手団体戦 |
| 第2日目 | |
| 開催場所 | 東京都 日本武道館 |
| 出場選手 | 140名 |
| 競技種目 | 男子・女子組手及び形個人戦 |
| 後援 (予定) | 文部科学省、公益財団法人日本体育協会、 (公財)日本オリンピック委員会、 (公財)日本武道館、日本武道協議会、 NHK、読売新聞社、報知新聞社、 日本財団、(公財)笹川スポーツ財団、 (公財)ブルーシー・アンド・グリーンランド財団 ((独)日本スポーツ振興センタースポーツ振興基金助成事業) |
| テレビ放映 | NHK Eテレ(教育テレビ)録画による放映(予定) |

イ. 第69回国民体育大会の実施

| | |
|------|---|
| 開催年月 | 平成26年10月(3日間) |
| 開催場所 | 長崎県 佐世保市 |
| 参加選手 | 414名(監督含む) |
| 競技種目 | 成年男子・女子組手及び形個人戦 少年男子・女子組手及び形個人戦 男子女子混合組手団体戦 |

(長崎県実行委員会委託事業)

ウ. 日本スポーツマスターズ2014空手道競技の実施

| | |
|------|----------------|
| 開催年月 | 平成26年9月 |
| 開催場所 | 埼玉県上尾市 埼玉県立武道館 |
| 参加選手 | 650名 |
| 競技種目 | 男子・女子組手及び形個人戦 |

(公益財団法人日本体育協会委託事業)

エ. 第10回全日本障害者空手道競技大会の開催

| | |
|------------|---|
| 開催年月 | 平成26年10月 |
| 開催場所 | 東京都(東京武道館) |
| 参加選手 | 200名 |
| 競技種目 | 男子・女子組手及び形個人戦 |
| 後援 (予定) | 文部科学省、厚生労働省、公益財団法人日本体育協会、 (公財)日本オリンピック委員会、(公財)日本武道館、 日本武道協議会、東京都、(公財)東京都体育協会、 (公財)日本障害者スポーツ協会、読売新聞社、 (公財)笹川スポーツ財団、 (公財)ブルーシー・アンド・グリーンランド財団 |

((独)福祉医療機構助成事業)

オ. 高等学校空手道大会の共催

a. 第41回全国高等学校空手道選手権大会

| | |
|------|-----------------------------|
| 開催年月 | 平成26年8月 |
| 開催場所 | 千葉県 印西市 松山下公園総合体育館 |
| 参加選手 | 850名 |
| 競技種目 | 男子・女子組手及び形個人戦 男子・女子組手団体戦 |

b. 第34回全国高等学校空手道選抜大会

| | |
|------------|---|
| 開催年月 | 平成27年3月 |
| 開催場所 | 東京都 渋谷区 東京体育館 |
| 参加選手 | 1,100名 |
| 競技種目 | 男子・女子組手及び形個人戦 男子・女子組手及び形団体戦 |
| 後援 (予定) | 文部科学省、(公財)日本オリンピック委員会、 (公財)日本武道館、東京都、東京都教育委員会、 (公財)東京都体育協会、渋谷区、渋谷区教育委員会ほか (JOCジュニアオリンピックカップ事業) |

カ. 全国中学生空手道選手権大会の共催

a. 第22回全国中学生空手道選手権大会

| | |
|------|--------------------------------|
| 開催年月 | 平成26年8月 |
| 開催場所 | 兵庫県 神戸市 グリーンアリーナ神戸 |
| 参加選手 | 1,300名 |
| 競技種目 | 男子・女子組手及び形個人戦 男子・女子組手及び形団体戦 |

b. 第9回全国中学生空手道選抜大会

| | |
|------|--|
| 開催年月 | 平成27年3月 |
| 開催場所 | 北海道 北広島市 |
| 参加選手 | 1,128名 |
| 競技種目 | 男子・女子組手及び形個人戦 |
| 後援 | 文部科学省、総務省、 |
| (予定) | 公益財団法人日本体育協会、(公財)日本オリンピック委員会、(公財)日本武道館、日本武道協議会、NHK、読売新聞社、(公財)笹川スポーツ財団、(公財)ブルーシー・アンド・グリーンランド財団、(公財)日本中学校体育連盟、全国中学校空手道連盟、北海道、北海道教育委員会、(公財)北海道体育協会 (総務省、(一財)地域活性化センター助成事業) |

キ. 第37回全日本少年少女武道(空手道)錬成大会の開催

| | |
|------|------------------|
| 開催年月 | 平成26年8月 |
| 開催場所 | 東京都 日本武道館 |
| 参加選手 | 3,000名 |
| 競技種目 | 基本及び試合錬成(団体形・組手) |

((公財)日本武道館との共催)

ク. 第14回全日本少年少女空手道選手権大会の開催

| | |
|------------|---|
| 開催年月 | 平成26年8月 2日間 |
| 開催場所 | 東京都 東京武道館 |
| 参加選手 | 2,200名 |
| 競技種目 | 男子・女子組手及び形個人戦 |
| 後援 (予定) | 文部科学省、公益財団法人日本体育協会、 (公財)日本オリンピック委員会、 (公財)日本武道館、日本武道協議会、 NHK、読売新聞社、(公財)ブルーシー・アンド・ グリーンランド財団、(公財)笹川スポーツ財団 |

((公財)スポーツ安全協会助成事業)

ケ. 第22回世界空手道選手権大会への参加

| | |
|-------|--------------------------------|
| 開催年月 | 平成26年11月 |
| 開催場所 | ドイツ ブレーメン市 |
| 参加国 | 120ヶ国 |
| 日本選手団 | 30名 |
| 競技種目 | 男子・女子組手及び形個人戦 男子・女子組手及び形団体戦 |

((公財)日本オリンピック委員会助成事業)

コ. 第14回アジアジュニア&カデット、21アンダー空手道選手権大会への参加

| | |
|-------|--------------------------------|
| 開催年月 | 平成26年6月 |
| 開催場所 | マレーシア クアラルンプール市 |
| 参加国 | 30ヶ国 |
| 日本選手団 | 50名 |
| 競技種目 | 男子・女子組手及び形個人戦 男子・女子組手及び形団体戦 |

((公財)日本オリンピック委員会委託事業)

サ. 第3回東アジアジュニア&カデット空手道選手権大会
及び第4回東アジアシニア空手道選手権大会への参加

| | |
|-------|--------------------------------|
| 開催年月 | 未定 |
| 開催場所 | 韓国 |
| 参加国 | 8ヶ国 |
| 日本選手団 | 50名 |
| 競技種目 | 男子・女子組手及び形個人戦 男子・女子組手及び形団体戦 |

((公財)日本オリンピック委員会委託事業)

シ. 第17回アジア競技大会への参加

| | |
|-------|--------------------------------|
| 開催年月 | 平成26年10月 |
| 開催場所 | 韓国 仁川市 |
| 参加国 | 45ヶ国 |
| 日本選手団 | 20名 |
| 競技種目 | 男子・女子組手及び形個人戦 男子・女子組手及び形団体戦 |

((公財)日本オリンピック委員会委託事業)

ス. プレミアリーグへの参加

開催時期 平成26年4月～平成27年3月
日本選手団 若干名

セ. プレミアリーグ(沖縄)の開催

開催年月 平成26年8月
開催場所 沖縄県 沖縄県立武道館
参加国 55ヶ国
参加選手 700名
競技種目 男子・女子組手及び形個人戦
男子・女子組手及び形団体戦

(沖縄県助成事業)

(2) 選手強化合宿の実施

ア. 国内合宿

選手選考会を実施し、ナショナルチームを編成、世界選手権大会等の国際競技会において優秀な成果を挙げるため、競技力向上を図る。

a. 強化選手選考会

実施時期 平成26年4月 2日間
実施場所 日本空手道会館
参加人数 200名

(自主事業)

b. 第1回選手強化合宿

実施時期 平成26年5月 2泊3日
実施場所 日本空手道会館
参加人数 60名

((公財)日本オリンピック委員会委託事業)

c. 第2回選手強化合宿

実施時期 平成26年6月 2泊3日

実施場所 日本空手道会館

参加人数 60名

((公財)日本オリンピック委員会委託事業)

d. 第3回選手強化合宿

実施時期 平成26年7月 2泊3日

実施場所 日本空手道会館

参加人数 60名

((公財)日本オリンピック委員会委託事業)

e. 第4回選手強化合宿

実施時期 平成26年8月 4泊5日

実施場所 日本空手道会館

参加人数 60名

((独)日本スポーツ振興センタースポーツ振興基金助成事業)

f. 第5回選手強化合宿

実施時期 平成26年9月 2泊3日

実施場所 日本空手道会館

参加人数 60名

((独)日本スポーツ振興センタースポーツ振興基金助成事業)

g. 第6回選手強化合宿

実施時期 平成26年10月 2泊3日

実施場所 日本空手道会館

参加人数 30名

((独)日本スポーツ振興センタースポーツ振興基金助成事業)

h. ジュニア強化選手選考会

| | | |
|------|---------|-----|
| 実施時期 | 平成26年4月 | 2日間 |
| 実施場所 | 日本空手道会館 | |
| 参加人数 | 100名 | |

(自主事業)

i. 第1回ジュニア選手強化合宿

| | |
|------|---------|
| 実施時期 | 平成26年5月 |
| 実施場所 | 日本空手道会館 |
| 参加人数 | 55名 |

((公財)ミズノスポーツ振興財団助成事業)

j. 第2回ジュニア選手強化合宿

| | |
|------|---------|
| 実施時期 | 平成26年6月 |
| 実施場所 | 日本空手道会館 |
| 参加人数 | 55名 |

((一財)滝井記念財団助成事業)

イ. 海外合宿

優秀な外国選手との交流を通じて国際レベルでの競技力の向上と国際親善に寄与するものとする。

| | |
|------|-----------------|
| 実施回数 | 1回 |
| 実施時期 | 平成26年8月～平成27年3月 |
| 実施場所 | ヨーロッパ地域(予定) |
| 参加人数 | 15名程度 |

((独)日本スポーツ振興センタースポーツ振興基金助成事業)

(3) 公認審判員講習・審査会の開催

ア. 全国公認組手審判員講習・審査会

| | |
|---------|------------------------------------|
| 開催回数 | 2回 |
| 開催年月 | 平成26年 4月 |
| 開催場所 | 東京・大阪会場 各1回 |
| 受講・受審者数 | 650名 |
| 講習内容 | 組手審判技術の向上と全国公認組手審判員の資格取得のための講習及び審査 |

イ. 全国公認形審判員講習・審査会

| | |
|---------|---------------------------------|
| 開催回数 | 1回 |
| 開催年月 | 平成26年 5月 |
| 開催場所 | 東京会場 |
| 受講・受審者数 | 95名 |
| 講習内容 | 形審判技術の向上と全国公認形審判員資格取得のための講習及び審査 |

ウ. 全国・地区公認組手及び形審判員講習・審査会

| | |
|---------|---|
| 開催回数 | 9地区 各1回 |
| 開催年月 | 平成26年 4月～平成27年 3月 |
| 開催場所 | 各地区協議会にて実施 |
| 受講・受審者数 | 950名 |
| 講習内容 | 組手及び形審判員の技術の向上と地区 公認審判員の資格取得のための講習及び審査 |

(4) 公認段位・推薦段位審査会、公認称号審査会の開催

ア. 公認4段位、公認5段位審査会

| | |
|---------|---------------------|
| 開催回数 | 9地区協議会及び実業団・高体連各1回 |
| 開催年月 | 平成26年 4月～平成27年 3月 |
| 開催場所 | 各地区協議会及び実業団・高体連 |
| 受講・受審者数 | 550名 |
| 審査内容 | 形(指定形、自由形)及び組手の実技審査 |

イ. 公認6段位、公認7段位審査会

| | |
|------|--------------------------------------|
| 開催回数 | 1回 |
| 開催年月 | 平成26年11月 |
| 開催場所 | 日本空手道会館 |
| 受審者数 | 180名 |
| 審査内容 | 筆記試験と形の演武により、高段者としての 人格と技術の適格性を審査 |

ウ. 公認 8 段位審査会

| | |
|---------|------------------------------------|
| 開 催 回 数 | 1 回 |
| 開 催 年 月 | 平成 2 7 年 3 月 |
| 開 催 場 所 | 日本空手道会館 |
| 受 審 者 数 | 4 0 名 |
| 審 査 内 容 | 論文と形の演武により、高段者としての 人格と技術の適格性を審査 |

エ. 公認推薦段位審査会

| | |
|---------|----------------|
| 開 催 回 数 | 1 回 |
| 開 催 年 月 | 平成 2 6 年 1 2 月 |
| 開 催 場 所 | 日本空手道会館 会議室 |
| 受 審 者 数 | 5 名 |
| 審 査 内 容 | 推薦段位規程に基づく書類審査 |

オ. 公認称号審査会

| | |
|---------|----------------|
| 開 催 回 数 | 1 回 |
| 開 催 年 月 | 平成 2 6 年 1 2 月 |
| 開 催 場 所 | 日本空手道会館 会議室 |
| 受 審 者 数 | 7 0 名 |
| 審 査 内 容 | 公認称号規程に基づく書類審査 |

(5) 公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者養成講習会・
更新義務研修会の開催

ア. 公認空手道コーチ専門科目講習会

| | |
|------|---|
| 開催回数 | 2回(前期・後期) |
| 開催年月 | 前期：平成26年10月 後期：平成26年12月 |
| 開催場所 | 日本空手道会館 |
| 受講者数 | 110名 |
| 講習内容 | 種目の特性に応じた基礎理論、実技、指導実習 (公益財団法人日本体育協会委託事業) |

イ. 公認空手道上級コーチ専門科目講習会

| | |
|------|---|
| 開催回数 | 1回 |
| 開催年月 | 平成27年 1月 |
| 開催場所 | 日本空手道会館 |
| 受講者数 | 20名 |
| 講習内容 | 種目の特性に応じた基礎理論、実技、指導実習 (公益財団法人日本体育協会委託事業) |

ウ. 公認空手道指導員・上級指導員専門科目講習会

| | |
|------|-----------------------|
| 開催地数 | 事業実施団体数 |
| 開催年月 | 平成26年 4月～平成27年 3月 |
| 開催場所 | 実施会場5～6都道府県 |
| 受講者数 | 各20名 |
| 講習内容 | 種目の特性に応じた基礎理論、実技、指導実習 |

エ. 公認空手道コーチ・上級コーチ更新義務研修会

| | |
|------|------------------|
| 開催回数 | 1回 |
| 開催年月 | 平成26年 9月 |
| 開催場所 | 日本空手道会館 |
| 受講人員 | 120名 |
| 講習内容 | 体育理論、実技（第2指定形4つ） |

オ. 公認空手道指導員・上級指導員更新義務研修会

| | |
|------|--|
| 開催回数 | 9地区 各1回 |
| 開催年月 | 平成26年 4月～平成26年11月 |
| 開催場所 | 各地区にて実施 |
| 受講人員 | 650名 |
| 講習内容 | 講義(スポーツに関する理論、指導実習、スポーツ医学より実情に応じて1つ選択)、実技(指定形4つ) |

(6) 講習会・研修会の開催

ア. 第5回全国指導者研修会

| | |
|------|--------------------|
| 開催年月 | 平成26年8月 |
| 開催場所 | 日本空手道会館 |
| 参加人員 | 70名 |
| 研修内容 | 体育理論、形・組手の指導法、審判実技 |

((公財)日本武道館との共催)

イ. 学校空手道実技指導者講習会

| | |
|------|--|
| 開催年月 | 平成27年 2月 |
| 開催場所 | 香川県 |
| 参加人員 | 40名 |
| 講習内容 | 解説(文部科学省)、講義(空手道の特性、 基本・移動基本動作、中学校武道指導実践法、 形の指導法)、段位認定 |

(文部科学省との共催)

ウ. スポーツ指導者研修会

| | |
|------|---|
| 開催年月 | 平成27年 2月 |
| 開催場所 | 和歌山県 |
| 参加人員 | 50名 |
| 講習内容 | スポーツ指導者の技術指導の理論と競技力 向上のための、指導法の講義と実技 |

エ. 1・2級資格審査員研修会

| | |
|------|------------------------------|
| 開催年月 | 平成26年 9月 |
| 開催場所 | 日本空手道会館 |
| 参加人員 | 80名 |
| 研修内容 | 資格審査員の空手道資質向上のための技術 研究と実技 |

オ. 公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者講師競技別
全国研修会

| | |
|------|-------------------------------|
| 開催年月 | 平成27年 2月 |
| 開催場所 | 日本空手道会館 |
| 参加人員 | 30名 |
| 研修内容 | 公認スポーツ指導者養成の講師となり得る 指導者の研修 |

(公益財団法人日本体育協会委託事業)

カ. 流派別形講習会

| | |
|------|------------------------------------|
| 開催年月 | 平成27年 3月 |
| 開催場所 | 日本空手道会館 |
| 参加人員 | 300名 |
| 講習内容 | 技の意味と分解 4大流派の伝統的な技と精神を習得するための講習 |

(7) 技術関係事業

段位、指導に関する事業の円滑な運営を図るため、中央技術委員会を開催する。空手道の伝統的技術の正しい伝承と習得のための、研修会・資格審査会を開催し、広く公認指導者の育成ならびに質的向上に努めるとともに、教範・DVD・ビデオの有効な活用をさらに推進する。

(8) 審判技術関係事業

国内及び世界の競技会において厳正にして正確な判定のできる高い技術と権威ある審判員を育成するための、講習会・審査会を開催する。2012年からWKFルールが一部改定されたが、全空連では平成25年度よりWKFルールと国内ルールとの整合をはかった。また選手強化委員会に協力して競技力の向上に寄与することとする。

(9) 選手強化事業

空手道がオリンピック種目不採用となったが、国際大会を視野にいれ、ナショナルチームの実力の向上と新人-有望選手の発掘と育成を充実させ、ジュニア及びカデット層からシニアに至る一貫した強化策を確立する。そのために財政面でもバックアップ体制を作っていく。また、プレミアリーグ大会にも積極的に参加していく。

(10) 指導員海外派遣事業

いまや世界200に近い国と地域に普及・発展を遂げた空手道であるが、これからも海外からの招聘に誠意を持って派遣し、もって国際親善に寄与するものとする。そのため、必要に応じての適材な指導者を派遣できる体制を整備する。

(11) 医科学関係事業

アンチドーピング機構が、文部科学省委託事業7年目となり厳しく施行されているなかで、競技会並びに検査プログラムに対応でき得るようナショナルチーム強化選手に徹底を図り、正確な知識の習得を促進させる。

強化委員の中から医科学関係分野の委員を兼任育成し、講習会の開催並びに資格取得を推進し、強化選手はもちろん幅広い世代に、健康増進と指導者の専門的知識の習得を図る。

ア. ドーピング検査(アンチ・ドーピング推進事業)

検査回数 年1回

検体数 8検体

((独)日本スポーツ振興センタースポーツ振興くじ助成事業)

(12) 空手道調査研究事業

空手道の歴史・伝統・文化に関する調査・研究を行い、資料として全日本空手道連盟に保存していく。

(13) 広報誌の発行

ア. 機関誌「ナイスカラテライフ」を発行し、連盟の事業内容、活動の状況、加盟団体や協力団体の情報を紹介し、会員の修練や指導に役立て空手道の発展振興を推進する。

発行回数 年2回

発行部数 1回 20,000部

配布先 会員、都道府県連盟、競技団体、協力団体
関係団体、報道関係等

イ. 中学校向け情報誌「あゆみ」を発行し、空手道をよりやさしく、楽しく役立つ誌面となるよう心がけ、教育現場に直接に渡るように配慮し、空手道の普及振興に役立てる。

発行回数 年2回

発行部数 1回 16,000部

配布先 都道府県教育委員会、全国中学校、都道府県連盟、競技団体、協力団体、関係団体、報道関係等

ウ. 女性の関心が高まってきた空手道をより広く親しまれる内容とする情報誌「かぐや」を発行する。女性会員一人ひとりに行き届くように配慮し、空手道の普及振興に役立てる。

発行回数 年1回

発行部数 1回 7,000部

配布先 女性会員、都道府県連盟、競技団体、協力団体
関係団体、報道関係等

(14) 世界空手連盟 (WKF)、アジア空手道連盟 (AKF)、及び東アジア空手道連盟 (EAKF) との連携と、外国関係諸団体との交流推進。

ア. WKF、AKF及びEAKFのリーダー的役割であることを認識し、各国の諸会議に代表役員を派遣し、空手道の普遍的な発展と振興を推進する。

また国際競技会や研修会等の事業に積極的に参加して、国際親善を通じて、人類の平和と繁栄のための空手道の確立に寄与する。

イ. 世界の空手道の主導的中心的な立場を自覚して、空手道の正確で高い技術の修得と普及のため、海外の競技会及び研修会に選手・役員並びに技術指導者を積極的に派遣する。

わが国の空手道が正統かつ伝統的技術をもって世界の空手道の発展に協力し、空手道が競技化の方向を主体として推進する中で、空手道のもつ精神の意義を自らの姿勢で主張し武道性を失わないよう理解を求めていく。

ウ. 早く確実に空手道がオリンピック種目になるために、WKF及びAKFの強い連携を促すもととなり、国際オリンピック委員会 (IOC) 及び日本オリンピック委員会 (JOC) の厚い信頼関係と協力をもとにこれからもオリンピック招致委員会の推進に尽力して、積極的に促進運動の先頭に立って実現に向けて最大の努力をする。